

量子ビーム分析アライアンスが結成 利用者育成と産業利用成果の最大化目指す

産業界における量子ビーム利用者の育成と多種の量子ビームを用いた産業利用成果の最大化を目指した産業施設連携組織「量子ビーム分析アライアンス」(代表:竹中幹人京都大学化学研究所・教授)が結成された。京都大学研究者を中心とした学術研究者、住友ゴム工業、TOYO TIRE、JSR、日本ゼオンなど高分子・ソフトマター業界を中心とした産業界15企業、大型の量子ビーム施設の三者が連携した。

量子ビームは電子、中性子、陽子、光子などの粒子と波の性質をあわせ持った量子が細く、平行に真っすぐ揃うビーム状の流れ。原子や分子のスケールで、物質の構造や機能の観察、微細なスケールでの材料の加工、病気の治療

などに使われている。

「量子ビーム分析アライアンス」では、大型放射光施設「SPRING-8」における京都大学専用ビームライン「BL28XU」、大強度陽子加速器施設物質・生命科学実験施設「J-PARC MLF」、研究用原子炉「JRR-3」等の量子ビーム施設で、人材育成のための基礎科学に基づいた実地教育および産業界の共通課題解決のための量子ビーム利用技術の高度化の推進を行うことによって、量子ビームを用いたイノベーションの創出を目指す。また、産学連携施設連携を強力に推進するため、結成2年目に当たる2022年度には、「量子ビーム分析アライアンス」による寄附研究部門「量子ビーム研究部門」(仮)を京都大学に創設する

開催する。

同研修は今年から3年計画で実施する企画の第1弾で、組織のリーダーとしての心構えや実践すべき具体的な行動について考え、メンバーの自主性の引き出し方などチームの活性化を図ることを目指す。グループワークを通して同業他社の考え方、ものの見



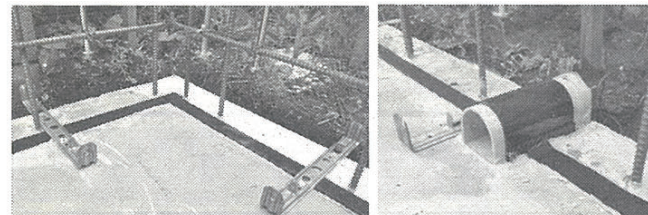
J-PARC MLFのビームラインBL16を使い6月に開催された共同研究・研修の様

ことを計画している。

「量子ビーム分析アライアンス」は、総合科学研究機構(CROSS)新事業展開部に事務局を置き、複数の施設をまたいだ活動を円滑に進めていく。2021年度は、フィージビリティ期間としてすでにJ-PARC MLFにおける中性子反射率測定の実験および技術研修を実施しており、オンライン授業の配信も開始している。

方を参考にすることで、今後の仕事に役立ててもらうことを目的としている。

当初は8月に予定されていたが、緊急事態宣言の発令を受けて延期していた。今回はマスク着用を徹底するとともに、希望者にはフェイスシールドを用意するなど、万全の感染対策のもとで実施する。



もしもレンジャー(黒い部分)とベンソンMBG

早川ゴム

早川ゴムは10月14日、住宅基礎の打継部処理材「もしもレンジャー」を発売したと発表した。

近年、豪雨・台風による住宅への浸水被害が甚大化して、もしも自宅が浸水してしまった場合、排水から乾燥

打継部からの浸水を抑制することができ、普段は防蟻成分を含有することでシロアリの侵入を抑制することもできる。

この製品は、早川ゴムが1967年から製造・販売しているコンクリート打継止水材「スパンシル」の止水技術を応用することで、打継部に

住宅基礎の打継部処理材発売

水とシロアリの侵入を防ぐ

まで、約1~2週間必要となり、この期間が長くなればなるほど復旧に時間がかかるとい

「もしもレンジャー」は、そうした問題に対処するため開発された製品で、住宅基礎のコンクリート打継部に設置し、後から施工する立上りコンクリートと、水和反応によって一体化することで打継部の隙間をなくすることができる。これにより、災害時に床下浸水の浸入経路となる基礎

において長年の悩みであったシロアリの侵入防止を実現した。

また住宅の建設工事中や床下浸水時に、浸入した水を簡単に抜くことができる住宅基礎水抜き孔システム「ベンソンMBG」を先行して販売しており、この2つの製品を組み合わせることで、基礎内への浸水に対して早期復旧が期待できるという。

中堅社員向けリーダーシップ研修を開催

西部ゴム商組

西部工業用ゴム製品卸商業組合(岡浩史理事長=岡安ゴム社長)は10月27日と11月5日に、大阪市北区の中央電気倶楽部大ホールで中堅社員向け「リーダーシップ研修」を